

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	当初：無期限（設定日：2018年9月20日） 2022年2月18日に繰上償還しました。	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
主な組入制限	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。 同一銘柄の投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の直接利用は行いません。
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の利用は行いません。
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。 （ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

償還運用報告書（全体版）

GCIオルタナティブバスケット・
ファンドV10（ラップ専用）

第4期（償還日 2022年2月18日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）」は、2022年2月18日をもちまして繰上償還させていただきました。
ここに、運用経過等をご報告申し上げます。
これまでの皆様のご愛顧に対しまして、心より厚くお礼申し上げますとともに、今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区大手町2-6-4

お問い合わせ先

クライアント・リレーションズ・グループ

TEL：03-6665-6952（営業日の9:00～17:00）

URL：https://www.gci.jp

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額 総
		税 分 配 込 金	期 騰 落 中 率		
(設 定 日) 2018年 9 月 20 日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 10
1 期 (2019年 6 月 17 日)	9,447	0	△5.5	98.3	861
2 期 (2020年 6 月 15 日)	8,885	0	△5.9	99.7	1,157
3 期 (2021年 6 月 15 日)	9,253	0	4.1	97.4	1,302
(償 還 時) 4 期 (2022年 2 月 18 日)	(償還価額) 9,020.60	—	△2.5	—	0.948838

(注) 基準価額の期中騰落率は分配金込みです。

(注) 設定日の基準価額は1万円当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。以下同じ。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

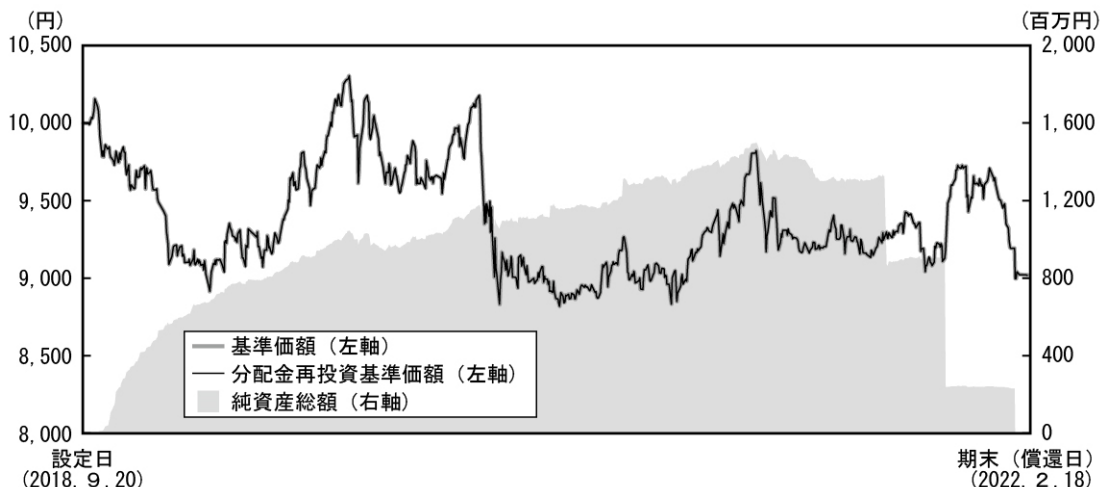
■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2021年 6 月 15 日	円 9,253	% —	% 97.4	
6 月 末	9,244	△0.1	97.1	
7 月 末	9,160	△1.0	96.9	
8 月 末	9,298	0.5	96.0	
9 月 末	9,174	△0.9	97.0	
10 月 末	9,109	△1.6	96.2	
11 月 末	9,523	2.9	91.7	
12 月 末	9,710	4.9	92.4	
2022年 1 月 末	9,193	△0.6	9.3	
(償 還 時) 2022年 2 月 18 日	(償還価額) 9,020.60	△2.5	—	

(注) 騰落率は期首比です。

運用経過

■設定以来の基準価額等の推移



設 定 日：10,000円

期末（償還日）：9,020円60銭（既払分配金（税引前）：一円）

騰 落 率：△9.8%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因（2018年9月20日～2022年2月18日）

当ファンドの基準価額は下落し、設定来のリターンは△9.8%となりました。当ファンドはGCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の指定投資信託証券に投資することにより、絶対収益の追求を目指して運用を行いました。

全期間を通じてマザーファンドの残高に対して高位の組入を行っていた「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」、および2021年9月より組入を開始した「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」が値下がりしたことにより、当ファンドの基準価額は下落しました。

トレンドフォロワー戦略からなる「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」においては、米国債券の売り持ちを主要ポジションとしていたところ米国債券が上昇（金利は低下）した2018年後半から2019年前半、北米株式の買い持ちを主要ポジションとしていたところ新型コロナウイルスの世界的感染拡大により急激に株価が下落した2020年2月から3月の大幅下落がマイナス

に影響しました。

複数の運用モデルからなる「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」においては、一般的に株式・債券の買い持ちポジションとしていたところ米国の金融政策正常化への警戒から株安・債券安となった2022年1月の大幅下落がマイナスに影響しました。

■設定以来の投資環境（2018年9月20日～2022年2月18日）

【国内債券】

国内債券市場は設定時と比べて下落（金利は上昇）しました。設定当初0.12%程度であった日10年国債利回りは、米国金利の上昇に連動して2018年10月には0.16%程度まで上昇しましたが、2018年末にグローバルで株価が下落し米連邦準備制度理事会（FRB）が金融引締めめに慎重なハト派姿勢に転換すると金利は低下基調となりました。金利はマイナス圏に突入し、米中対立が激化した2019年9月には質への逃避から△0.30%程度まで低下しましたが、その後は米中対立の緩和や景況感の改善などを背景に金利は上昇に転じ0%近辺まで戻しました。2020年のコロナショックでは再度マイナス圏に低下する場面もありましたが、大規模な金融・財政政策などに支えられ経済活動が再開するとプラス圏での推移となりました。2022年に入り欧米金融当局の金融政策の正常化観測の高まりから海外金利が上昇すると、国内金利にも上昇圧力がかかり日10年国債利回りは0.20%台と日銀がマイナス金利政策導入を決めた2016年1月以来約6年ぶりの高水準に上昇し、当ファンド設定時と比べると国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。

【国内株式】

国内株式市場は設定時と比べて上昇しました。設定当初は、貿易など米中対立の動向に振らされながらも日経平均株価は概ね20,000円台前半での推移となりましたが、2019年末にかけては米中協議が進展し株価は強含む展開となりました。しかし、2020年初より新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大すると国内株式市場も急落を余儀なくされ、日経平均株価は一時16,000円台前半まで下落しました。その後は、各国政府・中央銀行の大規模な財政政策と金融政策に支えられ株価は戻り基調となり、米国株式市場が最高値を更新するなか、日経平均株価も2021年2月に30年半ぶりに30,000円を一時回復しました。その後は、国内での新型コロナウイルスの感染拡大や欧米と比べたワクチン接種の遅れなどから上値が重く推移する期間が長くみられ、2021年末から償還日にかけては、欧米金融当局の金融政策正常化への警戒から米国金利が急上昇したことなどを嫌気し26,000円台まで下落する場面もありましたが、当ファンド設定時と比べると国内株式市場は上昇しました。

【外国債券】

外国債券市場は設定時と比べて上昇（金利は低下）しました。設定当初は米国は利上げ局面にあり米10年国債利回りは3.0%近辺で推移しましたが、利上げ加速による先行きの景気減速懸念から2018年末に株式市場が調整し、2019年明け以降FRBが利上げを停止し金融引締めめに慎重なハト派姿勢に転換すると、金利は概ね低下基調で推移しました。2020年のコロナショックでは金利は急激に低下し、米10年国債利回りは一時過去最低となる0.3%台を記録する場面もみられました。その後は、FRBのゼロ金利政策導入や資産買入など各国中銀による大規模な金融緩和、政府の経済政策、

新型コロナワクチン普及などに支えられ経済活動が再開し、金利はじりじりと上昇していく展開となりました。2021年末から償還日にかけてはインフレの長期化を受けFRBが金融引締めに積極的なタカ派姿勢に転じたことから金利は上昇基調を強め、米10年国債利回りは2.0%台まで上昇しましたが、当ファンド設定時と比べると外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。

【外国株式】

外国株式市場は設定時と比べて上昇しました。設定時から2018年末にかけては、米国金利の上昇などを背景に米国ハイテク株を中心に下落して始まりましたが、2019年に入りFRBがハト派姿勢に転換すると反発し、その後は米中貿易交渉の動向に左右されながらも、好調な企業業績等を背景に上昇基調が続きました。2020年のコロナショックではグローバルで株式市場は短期間で急落しましたが、各国政府・中央銀行による大規模な経済対策・金融政策を支えに反発し再び上昇基調に戻りました。その後も、2020年の米国大統領・議会選挙での民主党・バイデン氏の勝利を受けた大規模な経済対策や新型コロナワクチンの普及による経済活動の再開、企業業績の改善などから上昇基調を強め、米主要株価指数は史上最高値を度々更新する展開となりました。2022年初から償還日にかけては、インフレ長期化を受けたFRBの金融政策正常化や米国金利上昇への警戒からハイテク株を中心に大幅な調整となりましたが、当ファンド設定時と比べると外国株式市場は大幅に上昇しました。

【為替相場】

為替相場は、設定時と比べて円が対米ドルで下落しました。設定当初は米国は利上げ局面にあり、1ドル＝112円台半ばから114円でやや円安に推移しましたが、2018年末の株価下落と以降のFRBのハト派転換、米国金利の低下を受け円高に転じ、その後も概ね円高基調で推移しました。コロナショックを受けFRBが大規模な金融緩和を実施し米国金利が一段と低下すると、2021年初には1ドル＝102円台まで円高が進行しました。その後、バイデン政権による大規模な財政支出や新型コロナワクチンの普及による経済活動の再開期待などから米国金利が反転するとドル円も円安基調に転じ、償還日にかけては米国金利が一段と上昇したため1ドル＝115円台まで円安が進行し、設定時と比べると円は対米ドルで下落しました。

■当該投資信託のポートフォリオ（2018年9月20日～2022年2月18日）

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の指定投資信託証券に投資を行いました。

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行いました。設定当初より2021年9月までは、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。2021年9月からは、新たな収益源の確保ならびに分散効果の追求を目的として、「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」を指定投資信託証券に加え、3ファンドに投資を行いました。

当ファンドは約款の規定により、2022年2月18日に償還いたしました。設定以来約3年半にわた

るご愛顧をいただき、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■当該投資信託のベンチマークとの差異（2018年9月20日～2022年2月18日）

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金（2018年9月20日～2022年2月18日）

信託期間中における収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行いました。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 4 期		項目の概要
	2021年6月16日～2022年2月18日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	86円	0.927%	(a) 信託報酬の総額＝(1) 基本報酬＋(2) 成功報酬 基本報酬＝期中の平均基準価額×基本報酬率 期中の平均基準価額は9,301円です。 委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価 交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価 ファンドの運用実績に応じて投信会社が受け取る運用の対価
(1) 基本報酬	86	0.927	
(投信会社)	(83)	(0.897)	
(販売会社)	(1)	(0.007)	
(受託会社)	(2)	(0.022)	
(2) 成功報酬	－	－	
(b) その他費用	7	0.073	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(監査費用)	(7)	(0.073)	
合計	93	1.000	

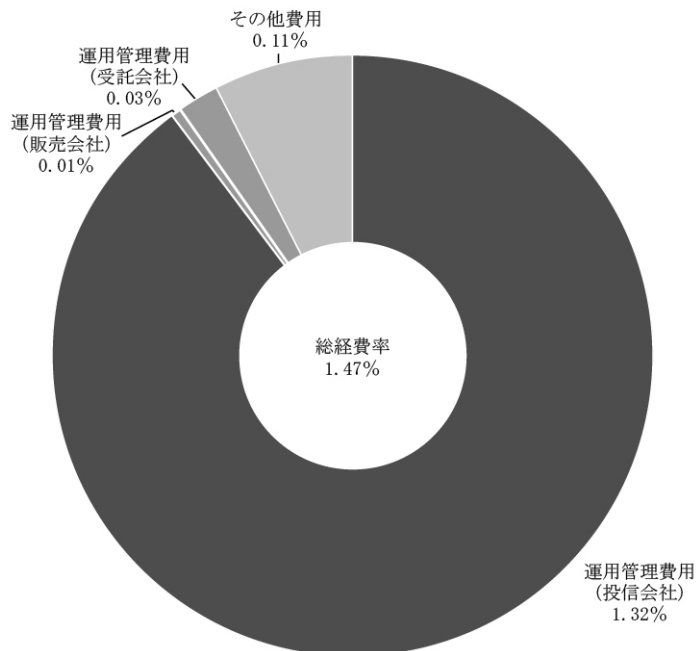
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.47%です。



（注）1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

（注）各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

（注）各比率は、年率換算した値です。

（注）上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買及び取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2021年6月16日から2022年2月18日まで)

フ ァ ン ド 名	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	77,215	75,000	1,407,649	1,357,967

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等 (2021年6月16日から2022年2月18日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業または商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年6月16日から2022年2月18日まで)

該当事項はありません。

■組入資産の明細

2022年2月18日（償還日）現在、有価証券の組入れはありません。

親投資信託残高

以下は前期末（2021年6月15日）の状況です。

フ ァ ン ド 名	期 首 (前 期 末)	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	1,330,434	1,287,328

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は、ありません。

■投資信託財産の構成

(2022年2月18日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	1,388	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	1,388	100.0

(注) 単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2022年2月18日現在)

項	目	償 還 時
(A) 資	産	1,388,629円
	コ ー ル ・ ロ ー ン 等	1,388,629
(B) 負	債	439,791
	未 払 信 託 報 酬	439,781
	未 払 利 息	10
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)		948,838
	元 本	1,051,857
	償 還 差 損 金	△103,019
(D) 受 益 権 総 口 数		1,051,857口
	1 万 口 当 たり 償 還 価 額 (C/D)	9,020円60銭

(注) 当ファンドの期首元本額は1,407,638,251円、期中追加設定元本額は142,869,871円、期中一部解約元本額は1,549,456,265円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.90206円です。

■損益の状況

当期（2021年6月16日から2022年2月18日まで）

項	目	当 期
(A) 配 当 等 収 益		△2,531円
	支 払 利 息	△2,531
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益		7,008,457
	売 買 益	2,456,924
	売 買 損	4,551,533
(C) 信 託 報 酬 等		△7,033,053
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)		△27,127
(E) 前 期 繰 越 損 益 金		△15,245
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金		△60,647
	(配 当 等 相 当 額)	(△7)
	(売 買 損 益 相 当 額)	(△60,640)
	償 還 差 損 金 (D+E+F)	△103,019

(注) (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるとは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

■投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2018年9月20日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2022年2月18日		資産総額	1,388,629円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	439,791円
				純資産総額	948,838円
受益権口数	10,000,000口	1,051,857口	△8,948,143口	受益権口数	1,051,857口
元本額	10,000,000円	1,051,857円	△8,948,143円	1万口当たり償還金	9,020円60銭
毎計算期末の状況					
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金額	分配率
第1期	911,556,342円	861,168,233円	9,447円	0円	0.0000%
第2期	1,302,243,906	1,157,086,033	8,885	0	0.0000
第3期	1,407,638,251	1,302,498,381	9,253	0	0.0000

■償還金のお知らせ

1万口当たりの償還金（税込）	9,020円60銭
----------------	-----------

■お知らせ（2021年6月16日～2022年2月18日）

◇約款変更

主要投資対象であるGCIオルタナティブバスケット・マザーファンドにおいて、投資対象とする投資信託証券を追加するため、投資信託約款に所要の変更を行いました。

（2021年9月16日）

換金（一部解約）時にかかる信託財産留保額を廃止し、換金（一部解約）時の価額を換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に変更しました。

（2021年12月27日）

◇運用体制の変更

該当事項はありません。

※当ファンドの信託終了日における有価証券の組入れはありません。

次頁以降は参考情報です。

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド

償還運用報告書

第4期（償還日 2022年2月17日）

＜計算期間 2021年6月16日～2022年2月17日＞

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドは、当マザーファンドの受益証券を投資対象とするすべての証券投資信託が信託を終了することにより、繰上償還することとなりました。ここに運用状況をご報告申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	当初：無期限（設定日：2018年9月20日） 2022年2月17日に繰上償還しました。
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。
主要投資対象	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
主な組入制限	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の利用は行いません。

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰	落 中 率		
(設 定 日) 2018年 9 月20日	円 10,000		% —	% —	百万円 12
1 期 (2019年 6 月17日)	9,557		△4.4	98.5	883
2 期 (2020年 6 月15日)	9,154		△4.2	100.0	1,209
3 期 (2021年 6 月15日)	9,676		5.7	98.5	1,287
(償 還 時) 4 期 (2022年 2 月17日)	(償還価額) 9,774.35		1.0	—	0.567922

(注) 設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

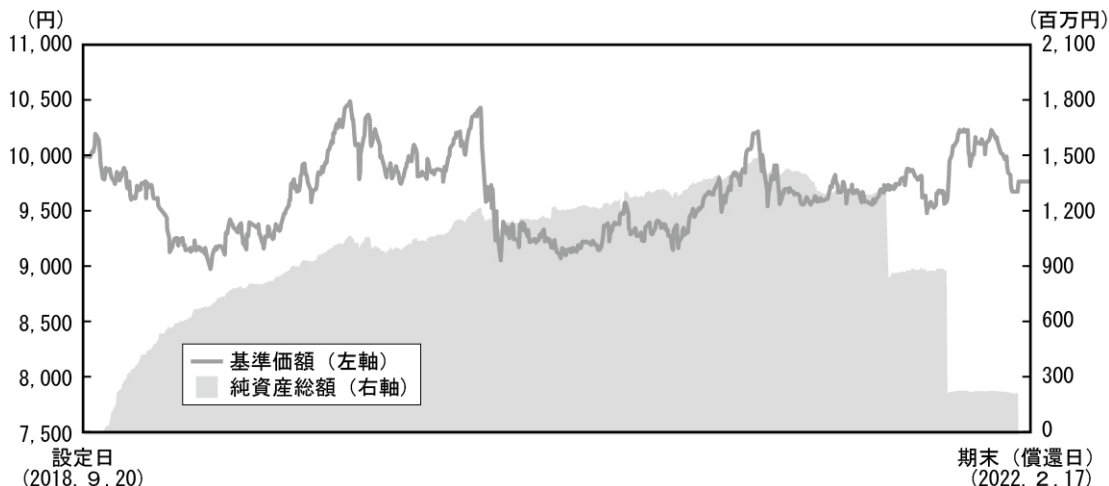
■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2021年 6 月15日	円 9,676		% —	% 98.5
6 月末	9,672		△0.0	97.9
7 月末	9,595		△0.8	97.6
8 月末	9,749		0.8	97.6
9 月末	9,630		△0.5	97.7
10月末	9,572		△1.1	97.6
11月末	10,021		3.6	96.2
12月末	10,242		5.8	96.3
2022年 1 月末	9,683		0.1	9.7
(償 還 時) 2022年 2 月17日	(償還価額) 9,774.35		1.0	—

(注) 騰落率は期首比です。

運用経過

■設定以来の基準価額等の推移



設 定 日 : 10,000円
 期末 (償還日) : 9,774円35銭
 騰 落 率 : $\Delta 2.3\%$

■基準価額の主な変動要因 (2018年9月20日～2022年2月17日)

当ファンドの基準価額は下落し、設定来のリターンは $\Delta 2.3\%$ となりました。当ファンドは、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の指定投資信託証券に投資することにより、絶対収益の追求を目指して運用を行いました。

全期間を通じて当ファンドの残高に対して高位の組入を行っていた「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」、および2021年9月より組入を開始した「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」が値下がりしたことにより、当ファンドの基準価額は下落しました。

トレンドフォロワー戦略からなる「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」においては、米国債券の売り持ちを主要ポジションとしていたところ米国債券が上昇（金利は低下）した2018年後半から2019年前半、北米株式の買い持ちを主要ポジションとしていたところ新型コロナウイルスの世界的感染拡大により急激に株価が下落した2020年2月から3月の大幅下落がマイナスに影響しました。

複数の運用モデルからなる「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」においては、全般的に株式・債券の買い持ちポジションとしていたところ米国の金融政策正常化への警戒から株安・債券安となった2022年1月の大幅下落がマイナスに影響しました。

■投資環境（2018年9月20日～2022年2月17日）

【国内債券】

国内債券市場は設定時と比べて下落（金利は上昇）しました。設定当初0.12%程度であった日10年国債利回りは、米国金利の上昇に連動して2018年10月には0.16%程度まで上昇しましたが、2018年末にグローバルで株価が下落し米連邦準備制度理事会（FRB）が金融引締めめに慎重なハト派姿勢に転換すると金利は低下基調となりました。金利はマイナス圏に突入し、米中対立が激化した2019年9月には質への逃避から△0.30%程度まで低下しましたが、その後は米中対立の緩和や景況感の改善などを背景に金利は上昇に転じ0%近辺まで戻しました。2020年のコロナショックでは再度マイナス圏に低下する場面もありましたが、大規模な金融・財政政策などに支えられ経済活動が再開するとプラス圏での推移となりました。2022年に入り欧米金融当局の金融政策の正常化観測の高まりから海外金利が上昇すると、国内金利にも上昇圧力がかかり日10年国債利回りは0.20%台と日銀がマイナス金利政策導入を決めた2016年1月以来約6年ぶりの高水準に上昇し、当ファンド設定時と比べると国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。

【国内株式】

国内株式市場は設定時と比べて上昇しました。設定当初は、貿易など米中対立の動向に振らされながらも日経平均株価は概ね20,000円台前半での推移となりましたが、2019年末にかけては米中協議が進展し株価は強含む展開となりました。しかし、2020年初より新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大すると国内株式市場も急落を余儀なくされ、日経平均株価は一時16,000円台前半まで下落しました。その後は、各国政府・中央銀行の大規模な財政政策と金融政策に支えられ株価は戻り基調となり、米国株式市場が最高値を更新するなか、日経平均株価も2021年2月に30年半ぶりに30,000円を一時回復しました。その後は、国内での新型コロナウイルスの感染拡大や欧米と比べたワクチン接種の遅れなどから上値が重く推移する期間が長くみられ、2021年末から償還日にかけては、欧米金融当局の金融政策正常化への警戒から米国金利が急上昇したことなどを嫌気し26,000円台まで下落する場面もありましたが、当ファンド設定時と比べると国内株式市場は上昇しました。

【外国債券】

外国債券市場は設定時と比べて上昇（金利は低下）しました。設定当初は米国は利上げ局面にあり米10年国債利回りは3.0%近辺で推移しましたが、利上げ加速による先行きの景気減速懸念から2018年末に株式市場が調整し、2019年明け以降FRBが利上げを停止し金融引締めめに慎重なハト派姿勢に転換すると、金利は概ね低下基調で推移しました。2020年のコロナショックでは金利は急激に低下し、米10年国債利回りは一時過去最低となる0.3%台を記録する場面もみられました。その後は、FRBのゼロ金利政策導入や資産買入など各国中銀による大規模な金融緩和、政府の経済政策、新型コロナワクチン普及などに支えられ経済活動が再開し、金利はじりじりと上昇していく展開となりました。2021年末から償還日にかけてはインフレの長期化を受けFRBが金融引締めに積極的なタカ派姿勢に転じたことから金利は上昇基調を強め、米10年国債利回りは2.0%台まで上昇しましたが、当ファンド設定時と比べると外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。

【外国株式】

外国株式市場は設定時と比べて上昇しました。設定時から2018年末にかけては、米国金利の上昇などを背景に米国ハイテク株を中心に下落して始まりましたが、2019年に入りFRBがハト派姿勢に転換すると反発し、その後は米中貿易交渉の動向に左右されながらも、好調な企業業績等を背景に上昇基調が続きました。2020年のコロナショックではグローバルで株式市場は短期間で急落しましたが、各国政府・中央銀行による大規模な経済対策・金融政策を支えに反発し再び上昇基調に戻りました。その後も、2020年の米国大統領・議会選挙での民主党・バイデン氏の勝利を受けた大規模な経済対策や新型コロナワクチンの普及による経済活動の再開、企業業績の改善などから上昇基調を強め、米主要株価指数は史上最高値を度々更新する展開となりました。2022年初から償還日にかけては、インフレ長期化を受けたFRBの金融政策正常化や米国金利上昇への警戒からハイテク株を中心に大幅な調整となりましたが、当ファンド設定時と比べると外国株式市場は大幅に上昇しました。

【為替相場】

為替相場は、設定時と比べて円が対米ドルで下落しました。設定当初は米国は利上げ局面にあり、1ドル＝112円台半ばから114円でやや円安に推移しましたが、2018年末の株価下落と以降のFRBのハト派転換、米国金利の低下を受け円高に転じ、その後も概ね円高基調で推移しました。コロナショックを受けFRBが大規模な金融緩和を実施し米国金利が一段と低下すると、2021年初には1ドル＝102円台まで円高が進行しました。その後、バイデン政権による大規模な財政支出や新型コロナワクチンの普及による経済活動の再開期待などから米国金利が反転するとドル円も円安基調に転じ、償還日にかけては米国金利が一段と上昇したため1ドル＝115円台まで円安が進行し、設定時と比べると円は対米ドルで下落しました。

■当該投資信託のポートフォリオ（2018年9月20日～2022年2月17日）

当ファンドでは、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の指定投資信託証券に投資を行いました。

当ファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行いました。設定当初より2021年9月までは、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。2021年9月からは、新たな収益源の確保ならびに分散効果の追求を目的として、「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」を指定投資信託証券に加え、3ファンドに投資を行いました。

当ファンドは約款の規定により、2022年2月17日に償還いたしました。

■当該投資信託のベンチマークとの差異（2018年9月20日～2022年2月17日）

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■ 1万口当たりの費用明細 (2021年6月16日から2022年2月17日まで)

該当事項はありません。

■ 売買及び取引の状況

投資信託受益証券、投資証券

(2021年6月16日から2022年2月17日まで)

			買付		売付	
			口数	金額	口数	金額
国内		GCI株式ロング&ショート レーディングファンド クラ スF（適格機関投資家専用）	口	千円	口	千円
			7,348,889	8,000	122,309,160 (511,065)	133,000 (555)
外国	ケイ マン	GCIシステマティック・マク ロファンド Vol10 クラスM	4,297	40,000	127,045	1,190,250
		GCIディバーシファイドアル ファファンド クラスM	40,000 (△0.001)	400,000 (－)	39,999	388,385
合計		証 券 数 ・ 金 額	7,393,186 (△0.001)	448,000 (－)	122,476,205 (511,065)	1,711,635 (555)

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(注) () 内は分割・償還による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

■ 利害関係人との取引状況等 (2021年6月16日から2022年2月17日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業または商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2021年6月16日から2022年2月17日まで)

該当事項はありません。

■ 組入資産の明細

2022年2月17日 (償還日) 現在、有価証券の組入れはありません。

■投資信託財産の構成

(2022年2月17日現在)

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	567	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	567	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本及び償還価額の状況

(2022年2月17日現在)

項 目	償 還 時
(A) 資 産	567,923円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	567,923
(B) 負 債	1
未 払 利 息	1
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	567,922
元 本	581,033
償 還 差 損 金	△13,111
(D) 受 益 権 総 口 数	581,033口
1 万 口 当 た り 償 還 価 額 (C/D)	9,774円35銭

(注) 当ファンドの期首元本額は1,330,434,516円、期中追加設定元本額は77,215,084円、期中一部解約元本額は1,407,068,567円です。

(注) 元本の内訳は以下の通りです。

・GCIオルタナティブバスケット・ファンド V10 (ラップ専用) 581,033円

(注) 1口当たり純資産額は0.977435円です。

■損益の状況

(2021年6月16日から2022年2月17日まで)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△19,395円
支 払 利 息	△19,395
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△4,322,622
売 買 益	10,648,259
売 買 損	△14,970,881
(C) 当 期 損 益 金 (A+B)	△4,342,017
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△43,124,577
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△2,215,084
(F) 解 約 差 損 益 金	49,668,567
償 還 差 損 金 (C+D+E+F)	△13,111

(注) (E)追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■お知らせ

◇約款変更

投資対象とする投資信託証券を追加するため、投資信託約款に所要の変更を行いました。

(2021年9月16日)

◇運用体制の変更

該当事項はありません。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	無期限（設定日：2018年9月20日）	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に關与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
主な組入制限	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。 同一銘柄の投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の直接利用は行いません。
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の利用は行いません。
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。 （ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

運用報告書（全体版）

GCIオルタナティブバスケット・
ファンドV10（ラップ専用）

第3期（決算日 2021年6月15日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）」は、このたび第3期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区西神田3-8-1

お問い合わせ先

クライアント・リレーションズ・グループ

TEL：03-3556-5040（営業日の9:00～17:00）

URL：<https://www.gci.jp>

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分 配 込 金	期 騰 落 中 率		
(設 定 日) 2018年 9 月 20 日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 10
1 期 (2019年 6 月 17 日)	9,447	0	△5.5	98.3	861
2 期 (2020年 6 月 15 日)	8,885	0	△5.9	99.7	1,157
3 期 (2021年 6 月 15 日)	9,253	0	4.1	97.4	1,302

(注) 基準価額の期中騰落率は分配金込みです。

(注) 設定日の基準価額は1万円当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。以下同じ。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

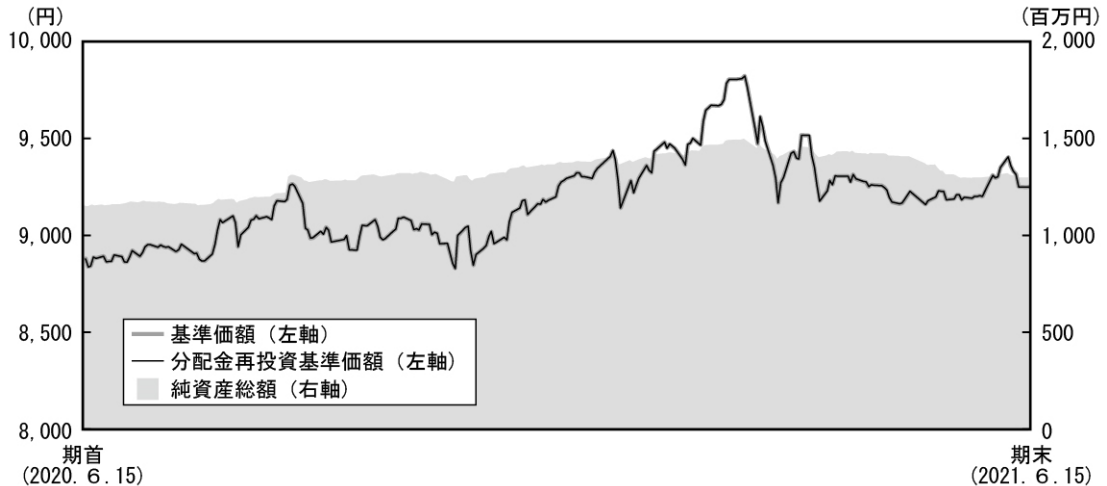
■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落 率	率	
(期 首) 2020年 6 月 15 日	円 8,885	% —	% 99.7	
6 月末	8,868	△0.2	98.7	
7 月末	8,873	△0.1	99.6	
8 月末	9,178	3.3	102.6	
9 月末	9,056	1.9	98.5	
10月末	8,961	0.9	99.1	
11月末	9,144	2.9	98.7	
12月末	9,348	5.2	98.7	
2021年 1 月末	9,451	6.4	98.6	
2 月末	9,768	9.9	98.6	
3 月末	9,264	4.3	98.7	
4 月末	9,230	3.9	99.2	
5 月末	9,287	4.5	98.2	
(期 末) 2021年 6 月 15 日	9,253	4.1	97.4	

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

運用経過

■当期中の基準価額等の推移



期 首：8,885円

期 末：9,253円（既払分配金（税引前）：0円）

騰 落 率：4.1%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は上昇し、当期間のリターンは+4.1%となりました。

マザーファンドにて組入を行った投資信託証券のうち、主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が上昇したことがプラスに影響しました。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。期の前半は特段の材料がないなか10年国債利回りは0%台前半での推移が継続しましたが、11月の米国大統領選挙でバイデン氏が勝利しインフレ懸念などから米国金利が上昇すると、国内金利も上昇（債券価格は下落）基調となりました。日銀が長短金利操作における長期金利の変動幅を拡大するとの思惑も加わり、10年国債利回りは0.18%まで上昇する場面も見られましたが、期の後半にかけては、米国金利の上昇一服を受け国内金利も低下に転じ0.1%を下回る水準で推移しました。

【国内株式】

当期の国内株式市場は上昇しました。期の前半は新型コロナウイルスの感染が拡大するなか緩やかに上昇しましたが、米国大統領選挙でのバイデン氏勝利やその後の大規模な経済対策の成立、新型コロナワクチンの開発・普及を受け米国株式が大きく上昇すると、国内株式も上昇基調を強めました。日経平均株価は2021年2月に約30年半ぶりに30,000円を回復しましたが、期の後半にかけては欧米と比べたワクチン接種の遅れや、度重なる緊急事態宣言の発出などが重石となり、上値の重い展開となりました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は下落（金利は上昇）しました。期の前半は各国中央銀行の大規模な金融緩和の下、米国10年国債利回りは0.6%～0.8%程度での推移が継続しましたが、米国大統領選挙以降は、バイデン政権による大規模な経済対策などから財政悪化や景気過熱によるインフレの加速が意識され、金利は急上昇しました。米国10年国債利回りは一時1.7%台後半まで上昇しましたが、その後は、米連邦準備制度理事会（FRB）がインフレの加速は一時的であり現行の金融緩和政策を当面継続するとの姿勢を示したため金利上昇は一服しました。欧州金利は、新型コロナウイルスの感染拡大が続き2021年初までは低下したものの、米国金利の上昇や欧州でのワクチン普及による景況感改善などをを受け上昇しました。

【外国株式】

当期の外国株式市場は上昇しました。世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大するなかでも、各国政府・中央銀行の大規模な財政・金融政策や米国ハイテク企業の好調な業績、新型コロナワクチン開発への期待などに支えられ、米国株式は上昇基調で推移しました。バイデン政権による大規模な経済対策が成立しワクチン接種が進展すると株価は一段と上昇する展開となりましたが、期の後半にかけては、米国金利の上昇が嫌気され、米ハイテク株を中心に上値が重くなる場面も見られました。欧州株式は、都市封鎖（ロックダウン）などの強い行動制限が取られたため期の前半は上値が重く推移しましたが、米国株式の上昇や新型コロナワクチン普及による経済活動再開への期待から上昇しました。

【為替相場】

当期の為替相場は、対ドルで円は下落しました。期初から2021年初にかけてはFRBによる大規模な金融緩和政策が長期化されるとの見方からドル安基調で推移し1ドル＝102円台まで円高が進行しましたが、バイデン政権が誕生し財政拡大・インフレ懸念などから米国金利が上昇するとドルは上昇に転じ、1ドル＝110円台まで円安が進行しました。欧州では新型コロナウイルスの感染拡大が続いたものの、期の後半にかけてはワクチン接種が進展し景況感が改善したことなどから、対ユーロでも円は下落しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資を行いました。マザーファンドへの投資については、当期を通じて当ファンド全体の組入比率を高位に保ちました。

マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。

期末におけるマザーファンド内での、各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」が88.9%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」が9.7%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行います。

【分配原資の内訳】

（単位：1万口当たり・税引前）

項目		第3期
		2020年6月16日～2021年6月15日
当期分配金	(円)	—
（対基準価額比率）	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	—

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

【GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）】

引き続き、運用の基本方針に従い、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

【GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド】

マザーファンドの運用については、投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 3 期		項目の概要
	2020年6月16日～2021年6月15日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	126円	1.364%	(a)信託報酬の総額＝(1)基本報酬＋(2)成功報酬 基本報酬＝期中の平均基準価額×基本報酬率 期中の平均基準価額は9,202円です。 委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価 交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価 ファンドの運用実績に応じて投信会社が受け取る運用の対価
(1) 基本報酬	126	1.364	
(投信会社)	(121)	(1.320)	
(販売会社)	(1)	(0.011)	
(受託会社)	(3)	(0.033)	
(2) 成功報酬	—	—	
(b) その他費用	8	0.083	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(監査費用)	(8)	(0.083)	
合計	134	1.447	

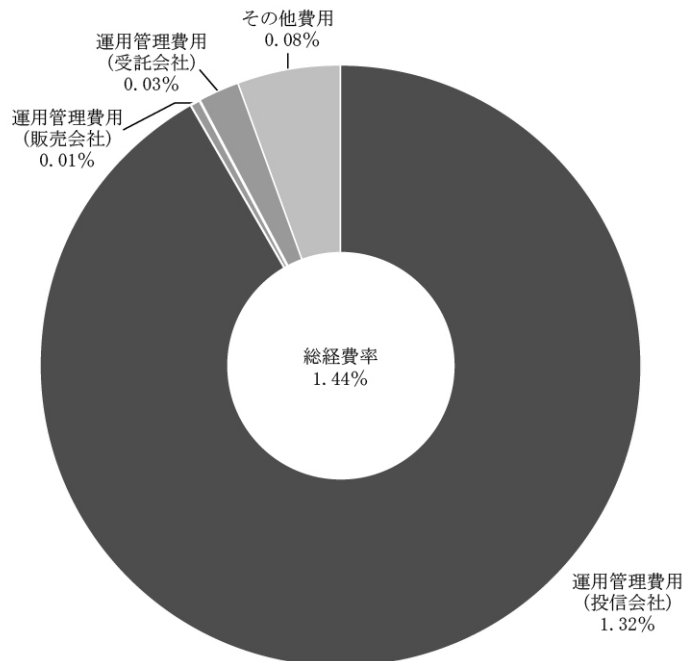
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.44%です。



(注) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) マザーファンドの投資対象先ファンドが支払った費用の比率は、単位未満のため表示していません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買及び取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2020年6月16日から2021年6月15日まで)

フ ァ ン ド 名	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	290, 127	276, 100	220, 099	210, 500

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等 (2020年6月16日から2021年6月15日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業または商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2020年6月16日から2021年6月15日まで)

該当事項はありません。

■組入資産の明細

親投資信託残高

(2021年6月15日現在)

フ ァ ン ド 名	期 首 (前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	1, 260, 406	1, 330, 434	1, 287, 328

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は、1, 330, 434千口です。

■投資信託財産の構成

(2021年6月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	1, 287, 328	97. 5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	32, 547	2. 5
投 資 信 託 財 産 総 額	1, 319, 875	100. 0

(注) 比率は、当ファンドの投資信託財産総額に対する各資産の評価額の割合です。

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2021年6月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,319,875,486円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	32,547,049
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド（評価額）	1,287,328,437
(B) 負 債	17,377,105
未 払 解 約 金	7,298,186
未 払 信 託 報 酬	9,528,835
未 払 利 息	84
そ の 他 未 払 費 用	550,000
(C) 純 資 産 総 額 (A－B)	1,302,498,381
元 本	1,407,638,251
次 期 繰 越 損 益 金	△105,139,870
(D) 受 益 権 総 口 数	1,407,638,251口
1 万口当たり基準価額 (C/D)	9,253円

(注) 当ファンドの期首元本額は1,302,243,906円、期中追加設定元本額は484,530,939円、期中一部解約元本額は379,136,594円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.9253円です。

■損益の状況

当期（2020年6月16日から2021年6月15日まで）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△8,806円
支 払 利 息	△8,806
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	58,221,049
売 買 益	68,060,456
売 買 損	△9,839,407
(C) 信 託 報 酬 等	△19,216,635
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	38,995,608
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△63,583,360
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△80,552,118
(配 当 等 相 当 額)	(△7,449)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△80,544,669)
(G) 計 (D+E+F)	△105,139,870
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	△105,139,870
追 加 信 託 差 損 益 金	△80,552,118
(配 当 等 相 当 額)	(△7,757)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△80,544,361)
繰 越 損 益 金	△24,587,752

(注) (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるとは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (H) 収益分配金の額の計算過程については、以下の表をご参照ください。

項目	当期
計算期間末における配当等収益から費用を控除した額	0円
有価証券売買等損益から費用を控除した額	0円
信託約款に規定される収益調整金	0円
信託約款に規定される分配準備積立金	0円
分配対象収益	0円
(1 万口当たり)	0円
分配金額	0円
(1 万口当たり)	0円

■分配金のお知らせ

	第 3 期
1 万 口 当 た り 分 配 金 （ 税 引 前 ）	0円

※分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。
※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。
※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

■お知らせ

◇約款変更

該当事項はありません。

◇運用体制の変更

該当事項はありません。

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド

運用報告書

第3期（決算日 2021年6月15日）

＜計算期間 2020年6月16日～2021年6月15日＞

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	無期限（設定日：2018年9月20日）
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。
主要投資対象	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に關与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
主な組入制限	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の利用は行いません。

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰	落 中 率		
(設 定 日) 2018年 9 月20日	円 10,000		% —	% —	百万円 12
1 期 (2019年 6 月17日)	9,557		△4.4	98.5	883
2 期 (2020年 6 月15日)	9,154		△4.2	100.0	1,209
3 期 (2021年 6 月15日)	9,676		5.7	98.5	1,287

(注) 設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

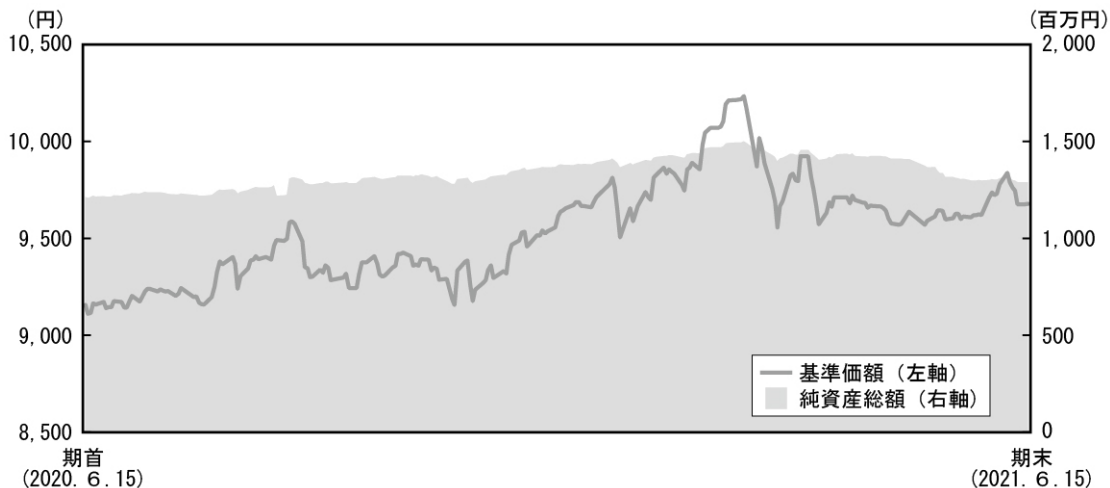
■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2020年 6 月15日	円 9,154		% —	% 100.0
6 月末	9,141		△0.1	98.9
7 月末	9,158		0.0	99.8
8 月末	9,485		3.6	102.8
9 月末	9,374		2.4	98.7
10月末	9,286		1.4	99.4
11月末	9,488		3.6	98.9
12月末	9,711		6.1	98.9
2021年 1 月末	9,830		7.4	98.8
2 月末	10,172		11.1	98.9
3 月末	9,660		5.5	98.9
4 月末	9,636		5.3	99.5
5 月末	9,706		6.0	98.8
(期 末) 2021年 6 月15日	9,676		5.7	98.5

(注) 騰落率は期首比です。

運用経過

■当期中の基準価額等の推移



期 首 : 9,154円
 期 末 : 9,676円
 騰 落 率 : 5.7%

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は上昇し、当期間のリターンは+5.7%となりました。

主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」が上昇したことがプラスに影響しました。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。期の前半は特段の材料がないなか10年国債利回りは0%台前半での推移が継続しましたが、11月の米国大統領選挙でバイデン氏が勝利しインフレ懸念などから米国金利が上昇すると、国内金利も上昇（債券価格は下落）基調となりました。日銀が長短金利操作における長期金利の変動幅を拡大するとの思惑も加わり、10年国債利回りは0.18%まで上昇する場面も見られましたが、期の後半にかけては、米国金利の上昇一服を受け国内金利も低下に転じ0.1%を下回る水準で推移しました。

【国内株式】

当期の国内株式市場は上昇しました。期の前半は新型コロナウイルスの感染が拡大するなか緩やかに上昇しましたが、米国大統領選挙でのバイデン氏勝利やその後の大規模な経済対策の成立、新型コロナワクチンの開発・普及を受け米国株式が大きく上昇すると、国内株式も上昇基調を強めました。日経平均株価は2021年2月に約30年半ぶりに30,000円を回復しましたが、期の後半にかけては欧米と比べたワクチン接種の遅れや、度重なる緊急事態宣言の発出などが重石となり、上値の重い展開となりました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は下落（金利は上昇）しました。期の前半は各国中央銀行の大規模な金融緩和の下、米国10年国債利回りは0.6%～0.8%程度での推移が継続しましたが、米国大統領選挙以降は、バイデン政権による大規模な経済対策などから財政悪化や景気過熱によるインフレの加速が意識され、金利は急上昇しました。米国10年国債利回りは一時1.7%台後半まで上昇しましたが、その後は、米連邦準備制度理事会（FRB）がインフレの加速は一時的であり現行の金融緩和政策を当面継続するとの姿勢を示したため金利上昇は一服しました。欧州金利は、新型コロナウイルスの感染拡大が続く2021年初までは低下したものの、米国金利の上昇や欧州でのワクチン普及による景況感改善などを受け上昇しました。

【外国株式】

当期の外国株式市場は上昇しました。世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大するなかでも、各国政府・中央銀行の大規模な財政・金融政策や米国ハイテク企業の好調な業績、新型コロナワクチン開発への期待などに支えられ、米国株式は上昇基調で推移しました。バイデン政権による大規模な経済対策が成立しワクチン接種が進展すると株価は一段と上昇する展開となりましたが、期の後半にかけては、米国金利の上昇が嫌気され、米ハイテク株を中心に上値が重くなる場面も見られました。欧州株式は、都市封鎖（ロックダウン）などの強い行動制限が取られたため期の前半は上値が重く推移しましたが、米国株式の上昇や新型コロナワクチン普及による経済活動再開への期待から上昇しました。

【為替相場】

当期の為替相場は、対ドルで円は下落しました。期初から2021年初にかけてはFRBによる大規模な金融緩和政策が長期化されるとの見方からドル安基調で推移し1ドル＝102円台まで円高が進行しましたが、バイデン政権が誕生し財政拡大・インフレ懸念などから米国金利が上昇するとドルは上昇に転じ、1ドル＝110円台まで円安が進行しました。欧州では新型コロナウイルスの感染拡大が続いたものの、期の後半にかけてはワクチン接種が進展し景況感が改善したことなどから、対ユーロでも円は下落しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、定性評価、定量評価等を勘案して当社が運用に関与するオルタナティブ戦略（投資信託証券）を複数選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。

期末における各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が88.9%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」が9.7%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■今後の運用方針

引き続き、運用の基本方針に従い、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

■ 1 万口当たりの費用明細

該当事項はありません。

■ 売買及び取引の状況

投資信託受益証券、投資証券

(2020年6月16日から2021年6月15日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	口	千円	口	千円
		23,885,985	25,000	29,196,321	31,000
外国	ケイマン GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM	22,584	205,000	22,832	210,000
合計	証 券 数 ・ 金 額	23,908,569	230,000	29,219,153	241,000

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

■ 利害関係人との取引状況等 (2020年6月16日から2021年6月15日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■ 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業または商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2020年6月16日から2021年6月15日まで)

該当事項はありません。

■ 組入資産の明細

ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンド

(2021年6月15日現在)

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
	口	千円	%
GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	115,471,336	124,339	9.7
GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM	122,747	1,144,174	88.9
合 計	115,594,083	1,268,513	

(注) 評価額は、単位未満を切り捨てています。

■投資信託財産の構成

(2021年6月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投 資 信 託 受 益 証 券	1,268,513	98.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	18,796	1.5
投 資 信 託 財 産 総 額	1,287,309	100.0

(注) 比率は、当ファンドの投資信託財産総額に対する各資産の評価額の割合です。

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2021年6月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,287,309,987円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	18,796,394
投資信託受益証券(評価額)	1,268,513,593
(B) 負 債	48
未 払 利 息	48
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	1,287,309,939
元 本	1,330,434,516
次 期 繰 越 損 益 金	△43,124,577
(D) 受 益 権 総 口 数	1,330,434,516口
1 万口当たり基準価額(C/D)	9.676円

(注) 当ファンドの期首元本額は1,321,696,182円、期中追加設定元本額は295,547,457円、期中一部解約元本額は286,809,123円です。

(注) 元本の内訳は以下の通りです。

・GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10(ラップ専用) 1,330,434,516円

(注) 1口当たり純資産額は0.9676円です。

■損益の状況

(2020年6月16日から2021年6月15日まで)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△10,496円
支 払 利 息	△10,496
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	69,891,450
売 買 益	69,925,556
売 買 損	△34,106
(C) 当 期 損 益 金 (A+B)	69,880,954
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△111,763,590
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△14,447,457
(F) 解 約 差 損 益 金	13,205,516
(G) 計 (C+D+E+F)	△43,124,577
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	△43,124,577

(注) (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (E) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (F) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■お知らせ

◇約款変更

該当事項はありません。

◇運用体制の変更

該当事項はありません。

[組入投資信託証券の内容]

GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

形態	追加型株式投資信託
信託期間	無期限（設定日：2018年9月21日）
運用方針	中長期的な信託財産の成長と安定した収益の確保を目標に積極的な運用を行います。
主要投資対象	GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンド受益証券
運用方法	GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンドの受益証券への投資を通じて、独自に開発した短期アルゴリズム取引を組み合わせた短期トレーディングによるロング・ショート運用を行います。
分配方針	年1回（2月20日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。（ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）

○損益の状況

(2020年2月21日～2021年2月22日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△9
支払利息	△9
(B) 有価証券売買損益	6,460,904
売買益	6,694,115
売買損	△233,211
(C) 信託報酬等	△48,801
(D) 当期損益金 (A+B+C)	6,412,094
(E) 前期繰越損益金	950,301
(F) 追加信託差損益金	630,065
(配当等相当額)	(378,224)
(売買損益相当額)	(251,841)
(G) 計 (D+E+F)	7,992,460
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金 (G+H)	7,992,460
追加信託差損益金	630,065
(配当等相当額)	(380,369)
(売買損益相当額)	(249,696)
分配準備積立金	7,362,395

(注) (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益 (39,032円)、費用控除後の有価証券等損益額 (6,066,241円)、信託約款に規定する収益調整金 (630,065円) および分配準備積立金 (1,257,122円) より分配対象収益は7,992,460円 (10,000口当たり595円) ですが、当期に分配した金額はありません。

○組入資産の明細

親投資信託残高

(2021年2月22日現在)

フ ァ ン ド 名	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
GCI株式ロング&ショートトレーディング マザーファンド	128,809	142,128

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンド全体の受益権口数は (2,225,813千口) です。

GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

ファンド形態	外国籍投資信託
主な投資対象	世界各国の株価指数先物・債券先物・金利先物、通貨先物、為替
運用の基本方針	システム運用により信託財産の長期的な成長を目指します。
委託会社 (運用会社)の名称	GCI Asset Management, HK Limited

○損益計算書 2020年6月1日～2021年5月31日

		(単位: USD)
Realised gain/loss	Commission & other charges	(186.92)
	Realised gain/loss fx forward	(271,582.84)
	Realised gain/loss fx spot	10,597.92
	Realised gain/loss mutual funds	(113,611.69)
		(374,783.53)
Unrealised gain/loss	FX gain/loss – balance sheet	(61,985.76)
	Unrealised p/l forward fx	44,849.72
	Unrealised p/l settled mutual funds	720,586.48
	Unrealised p/l spot fx	301.22
		703,751.66
Other expenses	Administration disbursements	(334.49)
	Administration fee expense	(3,344.93)
	Audit fee	(1,573.67)
	Bank charges	(745.38)
	CRS Services Expense	(646.35)
	FATCA Services fee expense	(760.21)
	Financial statement prep exp	(1,382.77)
	General Expenses	(87.78)
	Legal fee	(783.07)
	License fee	(1,480.83)
	MLRO Fee Expense	(253.39)
	Regulatory Fee Expense	(1,768.16)
	Trustee Fees Expense	(1,588.36)
		(14,749.39)
Investment Expenses	Interest Expense	(0.73)
		(0.73)
Investment management fee expense	Incentive fee expense	0.37
		0.37
NET PROFIT/LOSS FOR THE PERIOD		314,218.38

○組入上位10銘柄

2021年5月31日

	銘柄	種類	通貨	国	組入比率 (%)
1	2-Yr US Treasury Note Futures Sep 21	債券先物	USD	米国	198.2
2	10-year JGB Futures Jun 20 Jun 21	債券先物	JPY	日本	125.1
3	30-Yr US Treasury Bond Futures Sep 21	債券先物	USD	米国	44.7
4	French 10-Year Bond Future Jun 21	債券先物	EUR	ドイツ	17.5
5	Long Gilt Futures Sep 21	債券先物	GBP	英国	16.5
6	E-mini S&P 500 Futures Jun 21	株価指数先物	USD	米国	13.9
7	CAC-40 Index Futures Jun 21	株価指数先物	EUR	フランス	9.2
8	Nikkei 225 Futures Jun 20 Jun 21	株価指数先物	JPY	日本	9.1
9	E-mini NASDAQ-100 Futures Jun 21	株価指数先物	USD	米国	3.5
10	DAX Futures Jun 21	株価指数先物	EUR	ドイツ	1.8
組 入 銘 柄 数					11銘柄

(注) 銘柄は、GCIシステムティック・マクロファンド Vo110 クラスMが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地および債券は発行体の所在地です。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	無期限（設定日：2018年9月20日）	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に關与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
主な組入制限	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。 同一銘柄の投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の直接利用は行いません。
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の利用は行いません。
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。 （ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

運用報告書（全体版）

GCIオルタナティブバスケット・
ファンドV10（ラップ専用）

第2期（決算日 2020年6月15日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）」は、このたび第2期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区西神田3-8-1
お問い合わせ先（投信ビジネス・グループ）
TEL：03-3556-5040（営業日の9:00～17:00）
URL：https://www.gci.jp

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分 配 込 金	期 騰 落 中 率		
(設 定 日) 2018年 9 月20日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 10
1 期 (2019年 6 月17日)	9,447	0	△5.5	98.3	861
2 期 (2020年 6 月15日)	8,885	0	△5.9	99.7	1,157

(注) 基準価額の期中騰落率は分配金込みです。

(注) 設定日の基準価額は1万円当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、比率は実質比率を記載しています。以下同じ。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

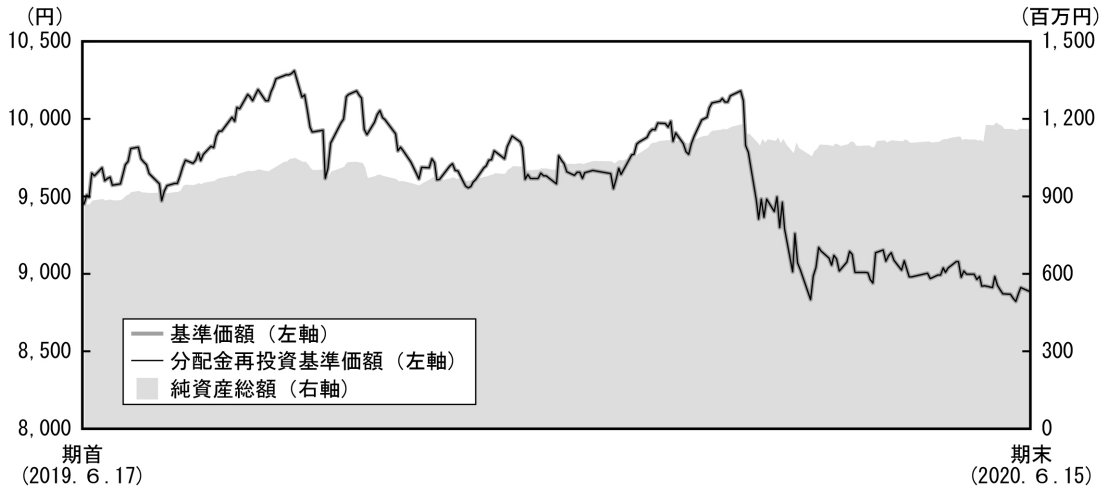
■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2019年 6 月17日	円 9,447	% —		% 98.3
6 月末	9,569	1.3		99.6
7 月末	9,775	3.5		97.9
8 月末	10,254	8.5		99.7
9 月末	10,177	7.7		99.1
10月末	9,602	1.6		97.1
11月末	9,886	4.6		97.2
12月末	9,663	2.3		97.1
2020年 1 月末	9,905	4.8		99.1
2 月末	9,781	3.5		98.2
3 月末	9,053	△4.2		98.2
4 月末	8,978	△5.0		98.9
5 月末	8,920	△5.6		93.5
(期 末) 2020年 6 月15日	8,885	△5.9		99.7

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

運用経過

■当期中の基準価額等の推移



期 首：9,447円

期 末：8,885円（既払分配金（税引前）：0円）

騰 落 率：△5.9%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は下落し、当期間のリターンは△5.9%となりました。

マザーファンドにて組入を行った投資信託証券のうち、主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が下落したことがマイナスに影響しました。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。8月には米中貿易摩擦を受けたリスクオフにより10年国債利回りは低下し、△0.3%近辺まで低下しました。その後は日銀の政策、世界各国の堅調な経済指標等を背景に金利は上昇基調が続きました。2020年3月頃には、新型コロナウイルスの感染拡大で国内債券も金利低下となりましたが、期末にかけては再び金利が上昇し、10年国債利回りは0%近辺での推移となりました。

【国内株式】

当期の国内株式市場はやや上昇となりました。8月には米中貿易摩擦の激化等を背景として下落となりましたが、その後は米中通商協議の進展等を受けて、日経平均株価は24,000円台に達する場面もありました。2020年2月後半から3月半ばにかけては新型コロナウイルスの世界的感染拡大とこれに伴う世界経済の減速懸念により、国内株式は急激な下落となりましたが、その後期末にかけては、各国による経済対策、感染拡大鈍化と経済再開への期待等を受けて回復基調が続きました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。8月には米中貿易摩擦の激化と世界経済の減速懸念等で各国の金利は低下しました。2020年に入ると新型コロナウイルスの世界的な感染拡大等を受けて金利低下が急激に進み、米国10年債の利回りは一時過去最低の0.3%台を記録する場面も見られました。しかし期末にかけては経済再開への期待が広がったこと等を受けてやや金利水準を戻しました。

【外国株式】

当期の外国株式市場はやや上昇となりました。8月には米中貿易摩擦の激化等を背景として下落となりましたが、その後は米中通商協議の進展、FRBの緩和姿勢、英国の総選挙結果等を受けて、上昇基調が続き、米国株式市場では主要3指数が史上最高値を更新しました。2020年2月後半から3月半ばにかけては新型コロナウイルスの世界的感染拡大とこれに伴う世界経済の減速懸念により、株式は短期間で世界的に急落となりましたが、3月後半以降は各国による経済対策、感染拡大鈍化と経済再開への期待等を背景に上昇基調が続き、期初の水準を超えて期末を迎えました。

【為替相場】

当期の為替相場は、円は対米ドルでやや上昇しました。8月には米中貿易摩擦激化を受けて円高が進行する場面がみられましたが、その後は堅調な米経済指標、米中通商協議の進展等を背景にゆるやかに円安基調となりました。その後、新型コロナウイルスの感染拡大を受けたリスク回避の動きで2020年3月には一時1ドル101円台となるなど急激に円高が進む場面もありましたが、その後各国による金融緩和や財政刺激策への期待から円安方向に反転しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に關与するオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資を行いました。マザーファンドへの投資については、当期を通じて当ファンド全体の組入比率を高位に保ちました。

マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。

期末におけるマザーファンド内での、各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が89.9%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」が10.1%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行います。

【分配原資の内訳】

（単位：1万口当たり・税引前）

項目		第2期
		2019年6月18日～2020年6月15日
当期分配金	(円)	—
（対基準価額比率）	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	—

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

【GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）】

引き続き、運用の基本方針に従い、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

【GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド】

マザーファンドの運用については、投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 2 期		項目の概要
	2019年6月18日～2020年6月15日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	167円	1.727%	(a)信託報酬の総額＝(1)基本報酬＋(2)成功報酬
(1) 基本報酬	131	1.357	基本報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(126)	(1.313)	当期中の平均基準価額は9,630円です。
(販売会社)	(1)	(0.011)	委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価
(受託会社)	(3)	(0.033)	交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(2) 成功報酬	36	0.370	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	10	0.099	ファンドの運用実績に応じて委託会社が受け取る運用の対価
(監査費用)	(10)	(0.099)	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000
(その他)	(0)	(0.000)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	177	1.826	その他は、信託事務の処理に要するその他の費用

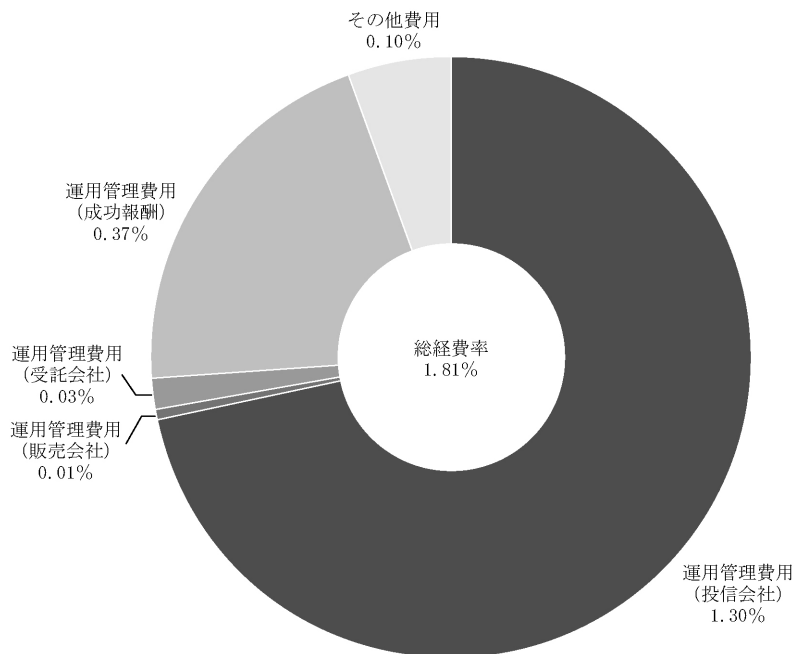
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.81%です。



(注) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) マザーファンドの投資対象先ファンドが支払った費用の比率は、単位未満のため表示していません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買及び取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2019年6月18日から2020年6月15日まで)

フ ァ ン ド 名	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	443,871	433,900	83,460	81,700

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等（2019年6月18日から2020年6月15日まで）

該当事項はございません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業または商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況（2019年6月18日から2020年6月15日まで）

該当事項はございません。

■組入資産の明細

親投資信託残高

(2020年6月15日現在)

フ ァ ン ド 名	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	1,260,406	1,153,776

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は、1,321,696千口です。

■投資信託財産の構成

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	1,153,776	98.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	17,333	1.5
投 資 信 託 財 産 総 額	1,171,109	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,171,109,595円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	13,333,542
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド（評価額）	1,153,776,053
未 収 入 金	4,000,000
(B) 負 債	14,023,562
未 払 解 約 金	6,033,350
未 払 信 託 報 酬	7,440,178
未 払 利 息	34
そ の 他 未 払 費 用	550,000
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	1,157,086,033
元 本	1,302,243,906
次 期 繰 越 損 益 金	△145,157,873
(D) 受 益 権 総 口 数	1,302,243,906口
1 万 口 当 たり 基 準 価 額 (C/D)	8,885円

(注) 当ファンドの期首元本額は911,556,342円、期中追加設定元本額は563,706,066円、期中一部解約元本額は173,018,502円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.8885円です。

■損益の状況

当期（2019年6月18日から2020年6月15日まで）

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△7,920円
支 払 利 息	△7,920
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△58,474,487
売 買 益	5,080,761
売 買 損	△63,555,248
(C) 信 託 報 酬 等	△18,875,533
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△77,357,940
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△5,110,464
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△62,689,469
(配 当 等 相 当 額)	(△5,548)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△62,683,921)
(G) 計 (D+E+F)	△145,157,873
(H) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	△145,157,873
追 加 信 託 差 損 益 金	△62,689,469
(配 当 等 相 当 額)	(△5,847)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△62,683,622)
繰 越 損 益 金	△82,468,404

(注) (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるとは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (H) 収益分配金の額の計算過程については、以下の表をご参照ください。

項目	当期
計算期間末における配当等収益から費用を控除した額	0円
有価証券売買等損益から費用を控除した額	0円
信託約款に規定される収益調整金	0円
信託約款に規定される分配準備積立金	0円
分配対象収益	0円
(1 万口当たり)	0円
分配金額	0円
(1 万口当たり)	0円

■分配金のお知らせ

	第2期
1 万 口 当 た り 分 配 金 （ 税 引 前 ）	0円

※分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。
※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。
※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

■お知らせ

◇約款変更

該当事項はありません。

◇運用体制の変更

該当事項はありません。

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド

運用報告書

第2期（決算日 2020年6月15日）

＜計算期間 2019年6月18日～2020年6月15日＞

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	無期限（設定日：2018年9月20日）
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。
主要投資対象	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
主な組入制限	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の利用は行いません。

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰	落 中 率		
(設 定 日) 2018年 9 月20日	円 10,000		% —	% —	百万円 12
1 期 (2019年 6 月17日)	9,557		△4.4	98.5	883
2 期 (2020年 6 月15日)	9,154		△4.2	100.0	1,209

(注) 設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

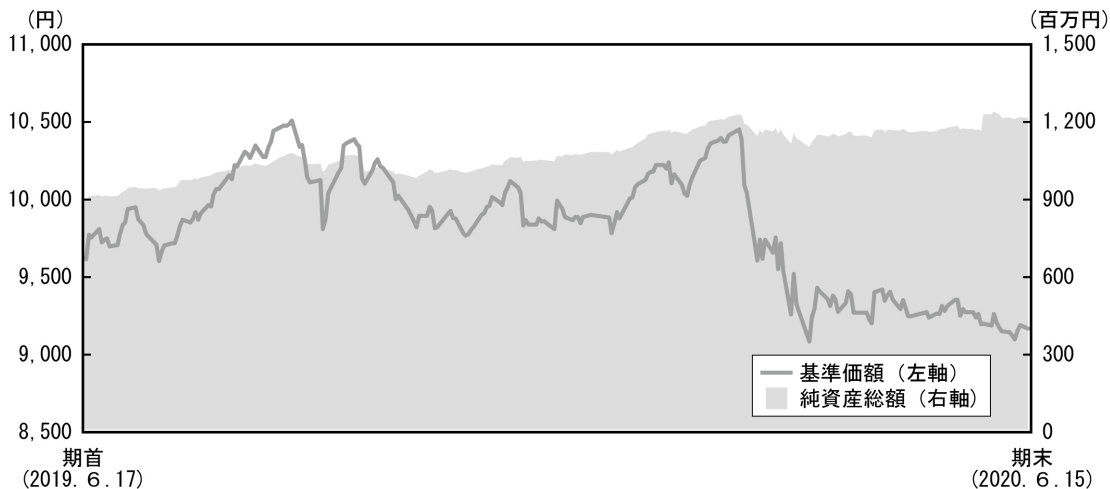
■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2019年 6 月17日	円 9,557		% —	% 98.5
6 月末	9,684		1.3	99.7
7 月末	9,907		3.7	97.9
8 月末	10,432		9.2	99.8
9 月末	10,379		8.6	99.2
10月末	9,803		2.6	97.5
11月末	10,107		5.8	97.6
12月末	9,889		3.5	97.3
2020年 1 月末	10,151		6.2	99.3
2 月末	10,034		5.0	98.4
3 月末	9,299		△2.7	98.6
4 月末	9,233		△3.4	99.1
5 月末	9,184		△3.9	93.8
(期 末) 2020年 6 月15日	9,154		△4.2	100.0

(注) 騰落率は期首比です。

運用経過

■当期中の基準価額等の推移



期 首 : 9,557円
 期 末 : 9,154円
 騰 落 率 : $\Delta 4.2\%$

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は下落し、当期間のリターンは $\Delta 4.2\%$ となりました。

主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」が下落したことがマイナスに影響しました。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。8月には米中貿易摩擦を受けたリスクオフにより10年国債利回りは低下し、 $\Delta 0.3\%$ 近辺まで低下しました。その後は日銀の政策、世界各国の堅調な経済指標等を背景に金利は上昇基調が続きました。2020年3月頃には、新型コロナウイルスの感染拡大で国内債券も金利低下となりましたが、期末にかけては再び金利が上昇し、10年国債利回りは0%近辺での推移となりました。

【国内株式】

当期の国内株式市場はやや上昇となりました。8月には米中貿易摩擦の激化等を背景として下落となりましたが、その後は米中通商協議の進展等を受けて、日経平均株価は24,000円台に達する場面もありました。2020年2月後半から3月半ばにかけては新型コロナウイルスの世界的感染拡大とこれに伴う世界経済の減速懸念により、国内株式は急激な下落となりましたが、その後期末にかけては、各国による経済対策、感染拡大鈍化と経済再開への期待等を受けて回復基調が続きました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。8月には米中貿易摩擦の激化と世界経済の減速懸念等で各国の金利は低下しました。2020年に入ると新型コロナウイルスの世界的な感染拡大等を受けて金利低下が急激に進み、米国10年債の利回りは一時過去最低の0.3%台を記録する場面も見られました。しかし期末にかけては経済再開への期待が広がったこと等を受けてやや金利水準を戻しました。

【外国株式】

当期の外国株式市場はやや上昇となりました。8月には米中貿易摩擦の激化等を背景として下落となりましたが、その後は米中通商協議の進展、FRBの緩和姿勢、英国の総選挙結果等を受けて、上昇基調が続き、米国株式市場では主要3指数が史上最高値を更新しました。2020年2月後半から3月半ばにかけては新型コロナウイルスの世界的感染拡大とこれに伴う世界経済の減速懸念により、株式は短期間で世界的に急落となりましたが、3月後半以降は各国による経済対策、感染拡大鈍化と経済再開への期待等を背景に上昇基調が続き、期初の水準を超えて期末を迎えました。

【為替相場】

当期の為替相場は、円は対米ドルでやや上昇しました。8月には米中貿易摩擦激化を受けて円高が進行する場面がみられましたが、その後は堅調な米経済指標、米中通商協議の進展等を背景にゆるやかに円安基調となりました。その後、新型コロナウイルスの感染拡大を受けたリスク回避の動きで2020年3月には一時1ドル101円台となるなど急激に円高が進む場面もありましたが、その後各国による金融緩和や財政刺激策への期待から円安方向に反転しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、定性評価、定量評価等を勘案して当社が運用に関与するオルタナティブ戦略（投資信託証券）を複数選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。

期末における各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が89.9%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」が10.1%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■今後の運用方針

引き続き、運用の基本方針に従い、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 2 期		項目の概要
	2019年6月18日～2020年6月15日		
	金額	比率	
(a) その他費用 （その他）	0円 (0)	0. 000% (0. 000)	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000 その他は、信託事務の処理に要するその他の費用
合計	0	0. 000	

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
- (注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。
- (注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額（9,841円）で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

■売買及び取引の状況

投資信託受益証券、投資証券

(2019年6月18日から2020年6月15日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		口	千円	口	千円
国内	GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	40,421,527	40,500	5,037,784	5,000
	GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM	43,932 (0.14)	415,500 (一)	5,119	50,000
合計	証 券 数 ・ 金 額	40,465,459 (0.14)	456,000 (一)	5,042,903	55,000

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(注) ()内は分割・償還による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

■利害関係人との取引状況等 (2019年6月18日から2020年6月15日まで)

該当事項はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業または商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2019年6月18日から2020年6月15日まで)

該当事項はありません。

■組入資産の明細

ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンド

(2020年6月15日現在)

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
	口	千円	%
GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	120,781,672	121,808	10.1
GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM	122,995	1,087,813	89.9
合 計	120,904,667	1,209,622	

(注) 評価額は、単位未満を切り捨てています。

■投資信託財産の構成

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投 資 信 託 受 益 証 券	1,209,622	99.6
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	4,310	0.4
投 資 信 託 財 産 総 額	1,213,932	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2020年6月15日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	1,213,932,603円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	4,310,460
投資信託受益証券(評価額)	1,209,622,143
(B) 負 債	4,000,011
未 払 解 約 金	4,000,000
未 払 利 息	11
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	1,209,932,592
元 本	1,321,696,182
次 期 繰 越 損 益 金	△111,763,590
(D) 受 益 権 総 口 数	1,321,696,182口
1 万口当たり基準価額(C/D)	9,154円

(注) 当ファンドの期首元本額は924,778,818円、期中追加設定元本額は487,531,441円、期中一部解約元本額は90,614,077円です。

(注) 元本の内訳は以下の通りです。

・GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10(ラップ専用) 1,260,406,438円
 ・GCIオルタナティブバスケット・ファンドV3(ラップ専用) 61,289,744円

(注) 1口当たり純資産額は0.9154円です。

■損益の状況

(2019年6月18日から2020年6月15日まで)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△7,582円
支 払 利 息	△7,582
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△61,569,968
売 買 益	3,816,524
売 買 損	△65,386,492
(C) そ の 他 費 用 等	△273
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△61,577,823
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△40,968,403
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△11,031,441
(G) 解 約 差 損 益 金	1,814,077
(H) 計 (D+E+F+G)	△111,763,590
次 期 繰 越 損 益 金 (H)	△111,763,590

(注) (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (F) 追加信託差損益金とは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (G) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■お知らせ

◇約款変更

該当事項はありません。

◇運用体制の変更

該当事項はありません。

[組入投資信託証券の内容]

GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

形態	追加型株式投資信託
信託期間	無期限（設定日：2018年9月21日）
運用方針	中長期的な信託財産の成長と安定した収益の確保を目標に積極的な運用を行います。
主要投資対象	GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンド受益証券
運用方法	GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンドの受益証券への投資を通じて、独自に開発した短期アルゴリズム取引を組み合わせた短期トレーディングによるロング・ショート運用を行います。
分配方針	年1回（2月20日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。（ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）

○損益の状況

(2019年2月21日～2020年2月20日)

項 目	当 期
	円
(A) 有価証券売買損益	1,036,398
売買益	1,046,117
売買損	△9,719
(B) 信託報酬等	△35,521
(C) 当期損益金 (A+B)	1,000,877
(D) 前期繰越損益金	39,892
(E) 追加信託差損益金	△280,014
(配当等相当額)	(36,593)
(売買損益相当額)	(△316,607)
(F) 計 (C+D+E)	760,755
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金 (F+G)	760,755
追加信託差損益金	△280,014
(配当等相当額)	(35,928)
(売買損益相当額)	(△315,942)
分配準備積立金	1,376,800
繰越損益金	△336,031

(注) (A) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (B) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益 (1,330,522円)、費用控除後の有価証券等損益額 (0円)、信託約款に規定する収益調整金 (35,928円) および分配準備積立金 (46,278円) より分配対象収益は1,412,728円 (10,000口当たり121円) ですが、当期に分配した金額はありません。

○組入資産の明細

親投資信託残高

(2020年2月20日現在)

フ ァ ン ド 名	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
GCI株式ロング&ショートトレーディング マザーファンド	111,289	116,631

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンド全体の受益権口数は (4,213,147千口) です。

GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

ファンド形態	外国籍投資信託
主な投資対象	世界各国の株価指数先物・債券先物・金利先物、通貨先物、為替
運用の基本方針	システム運用により信託財産の長期的な成長を目指します。
委託会社 (運用会社)の名称	GCI Asset Management, HK Limited

○損益計算書 2019年6月1日～2020年5月31日

(単位: USD)

Realised gain/loss	Commission & other charges	(48.39)
	Realised gain/loss fx forward	51,193.98
Unrealised gain/loss	FX gain/loss – balance sheet	(28,380.44)
	Unrealised p/l forward fx	(128,517.64)
	Unrealised p/l settled mutual funds	124,680.47
		(32,217.61)
Interest income	Interest income bank accounts	7,100.43
		7,100.43
Other expenses	Administration disbursements	(34.65)
	Administration fee expense	(346.46)
	Audit fee	(148.96)
	Bank charges	(262.47)
	CRS Services Expense	(44.70)
	FATCA Services fee expense	(57.74)
	Financial statement prep exp	(121.84)
	Legal fee	(604.81)
	License fee	(112.51)
	MLRO Fee Expense	(19.25)
	Other Professional Services Expense	(989.90)
	Regulatory Fee Expense	(126.53)
	Trustee Fees Expense	(279.72)
		(2,990.47)
Investment Expenses	Interest Expense	(311.92)
		(311.92)
Investment management fee expense	Incentive fee expense	(0.12)
	Management Fees Expense	0.00
		(0.12)
NET PROFIT/LOSS FOR THE PERIOD		15,625.47

○組入上位10銘柄

2020年5月29日

	銘柄	種類	通貨	国	組入比率 (%)
1	5-Yr US Treasury Note Futures Sep 20	債券先物	USD	米国	164.5
2	French 10-Year Bond Future Jun 20	債券先物	EUR	ドイツ	38.9
3	30-Yr US Treasury Bond Futures Sep 20	債券先物	USD	米国	21.1
4	E-mini NASDAQ-100 Futures Jun 20	株価指数先物	USD	米国	17.0
5	10-year JGB Futures Jun 20	債券先物	JPY	日本	13.3
6	FTSE 100 Index Futures Jun 20	株価指数先物	GBP	英国	9.1
7	Australian Dollar Futures Jun 20	通貨先物	USD	米国	7.2
8	Nikkei 225 Futures Jun 20	株価指数先物	JPY	日本	5.3
9	CAC-40 Index Futures Jun 20	株価指数先物	EUR	フランス	3.7
10	—	—	—	—	—
組 入 銘 柄 数					9 銘柄

(注) 銘柄は、GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスMが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地および債券は発行体の所在地です。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	無期限（設定日：2018年9月20日）	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に關与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
主な組入制限	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	マザーファンドの受益証券への投資割合には、制限を設けません。 同一銘柄の投資信託証券への実質投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の直接利用は行いません。
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の利用は行いません。
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。 （ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

運用報告書（全体版）

GCIオルタナティブバスケット・
ファンドV10（ラップ専用）

第1期（決算日 2019年6月17日）

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）」は、このたび第1期の決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区西神田3-8-1
お問い合わせ先（クライアント・リレーションズ・グループ）
TEL：03-3556-5040（営業日の9:00～17:00）
URL：https://www.gci.jp

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		税 分 配 込 金	期 騰 落 中 率		
(設 定 日) 2018年 9 月20日	円 10,000	円 —	% —	% —	百万円 10
1 期 (2019年 6 月17日)	9,447	0	△5.5	98.3	861

(注) 基準価額の期中騰落率は分配金込みです。

(注) 設定日の基準価額は1万円当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■当期中の基準価額等の推移

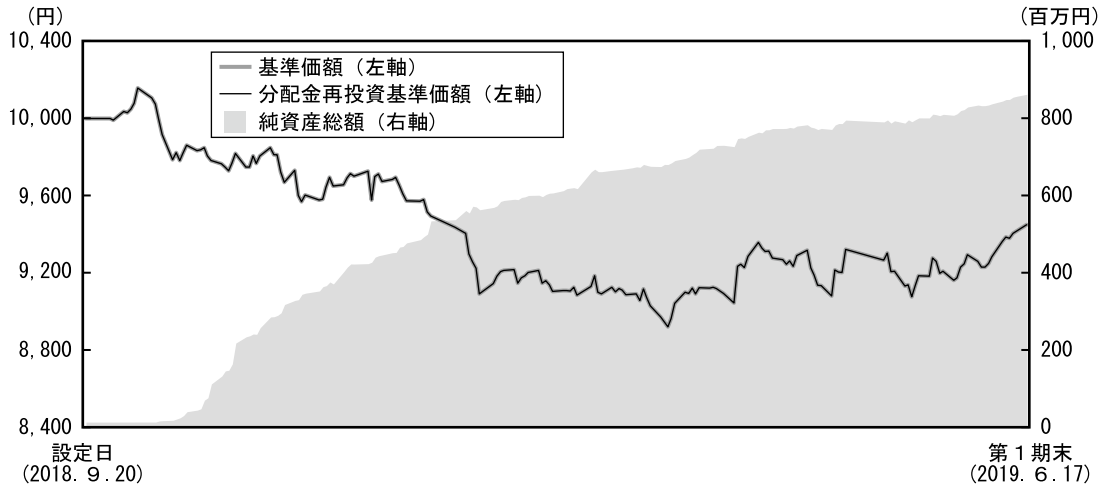
年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰 落 率	率	
(設 定 日) 2018年 9 月20日	円 10,000	% —	% —	
9 月末	9,990	△0.1	99.8	
10月末	9,728	△2.7	38.9	
11月末	9,649	△3.5	94.4	
12月末	9,492	△5.1	85.2	
2019年 1 月末	9,136	△8.6	99.1	
2 月末	9,070	△9.3	98.5	
3 月末	9,282	△7.2	98.6	
4 月末	9,319	△6.8	98.3	
5 月末	9,292	△7.1	98.4	
(期 末) 2019年 6 月17日	9,447	△5.5	98.3	

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は設定日比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「投資信託証券組入比率」は実質比率を記載しております。

運用経過

■基準価額等の推移



設 定 日 : 10,000円

第 1 期末 : 9,447円 (既払分配金 (税引前) : 0円)

騰 落 率 : $\Delta 5.5\%$ (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は下落し、当期間のリターンは $\Delta 5.5\%$ となりました。

マザーファンドにて組入を行った投資信託証券のうち、主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が下落したことがマイナスに影響しました。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は上昇（金利は低下）しました。期初には海外長期金利の上昇を受けて、国内金利は上昇しましたが、その後、2018年末から19年初にかけ国内外で株価が下落となったこと等から2019年初には国内10年国債利回りが再度マイナス圏に突入しました。その後も世界景気の減速懸念や米国金利の低下に伴いじりじりと金利は低下し、また、期の終盤においては米中貿易摩擦や米国の利下げ観測を受け、国内債券は上昇（金利は低下）、国内10年国債利回りはさらにマイナス圏を深堀りする格好となりました。

【国内株式】

当期の国内株式市場は下落しました。2018年10月初に日経平均株価が27年ぶりの高値を更新する場面もありましたが、その後は、米国ハイテク株の急落や米国景気の減速懸念等を受け株価は下落しました。1月以降は、FRB（米連邦準備理事会）の利上げに慎重な姿勢への転換、米中通商協議の進展期待等を背景に株価は回復していきましたが、5月に入り一転米中貿易摩擦が激化、為替が円高方向へ進んだことも重しとなり、再び株価は下落となりました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。期初には良好な米国経済指標やFRB高官のタカ派姿勢を背景に金利は上昇しましたが、世界的な株価急落を受け金利は低下に転じました。その後も、主要中央銀行の慎重な姿勢、世界的な景気後退への懸念、2019年5月以降の米中貿易摩擦の激化等、金利低下圧力が続きました。

【外国株式】

当期の外国株式市場はほぼ横ばいとなりました。10月に入り米国ハイテク株の急落をきっかけに下落となり、その後も、米国の政府機関閉鎖や英国のEU離脱交渉の混迷、米中関係の悪化懸念等の悪材料が多く調整局面が継続し、年末にかけて一段と下落しました。しかし、2019年に入ってから、主要中央銀行の慎重な姿勢、米中貿易協議の進展、好調な企業決算等を背景に上昇が続きまし

た。5月には米中貿易摩擦の激化、欧米の経済指標の悪化、米国による対メキシコへの追加関税表明などから下落となりましたが、期末にかけては主要国中央銀行の経済下振れリスクへの対応、米国の対メキシコへの追加関税の回避等を材料に反発し、期初に近い水準で期末を迎えました。

【為替相場】

当期の為替相場は、円は対米ドルで上昇しました。2018年12月半ばから2019年初にかけては世界経済の減速懸念や株安を受けて円高が進みましたが、その後は米中通商協議の進展期待や良好な海外経済指標等を背景に円安傾向となりました。しかし、5月に入り一転米中貿易摩擦が激化し、加えて米国によるメキシコへの追加関税が表明される等を受けて再び円高が進みました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資を行いました。マザーファンドへの投資については、当期を通じて当ファンド全体の組入比率を高位に保ちました。

マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。なお、「GCIリラティブバリューファンド クラスE1」は、ファンドが償還されるはこびとなりましたため、本年3月末に投資対象ファンドより除外といたしました。当ファンド設定以来組入れの実績はなく、当ファンドの運用において実質的な影響はございません。

期末におけるマザーファンド内での、各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」が88.8%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」が9.6%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行います。

【分配原資の内訳】

（単位：1万口当たり・税引前）

項目		第1期
		2018年9月20日～2019年6月17日
当期分配金	(円)	—
（対基準価額比率）	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	—

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

【GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）】

引き続き、運用の基本方針に従い、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

【GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド】

マザーファンドの運用については、投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 1 期		項目の概要
	2018年9月20日～2019年6月17日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 （基本報酬）	95円	1. 002%	(a) 信託報酬の総額＝基本報酬＋成功報酬 基本報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 当期中の平均基準価額は9, 439円です。
（投信会社）	(91)	(0. 962)	委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価
（販売会社）	(1)	(0. 008)	交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0. 024)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
（成功報酬）	(1)	(0. 008)	ファンドの運用実績に応じて委託会社が受け取る運用の対価
(b) その他費用 （その他）	0	0. 000	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10, 000
	(0)	(0. 000)	その他は、信託事務の処理に要するその他の費用
合計	95	1. 002	

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

■売買及び取引の状況

親投資信託受益証券の設定、解約状況

(2018年9月20日から2019年6月17日まで)

フ ァ ン ド 名	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	911,339	872,235	11,343	11,000

(注) 単位未満は切り捨てています。

■利害関係人との取引状況等 (2018年9月20日から2019年6月17日まで)

該当事項はございません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業または商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2018年9月20日から2019年6月17日まで)

該当事項はございません。

■自社による当ファンドの設定・解約状況

(2018年9月20日から2019年6月17日まで)

期 首 残 高 (元 本)	当 期 設 定 元 本	当 期 解 約 元 本	期 末 残 高 (元 本)	取 引 の 理 由
百万円 —	百万円 10	百万円 10	百万円 0	当初設定時における取得等

(注) 当期は第1期であるため、期首残高（元本）は該当ありません。

■組入資産の明細

親投資信託残高

(2019年6月17日現在)

フ ァ ン ド 名	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	899,995	860,125

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの期末の受益権総口数は、924,778千口です。

■投資信託財産の構成

(2019年6月17日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	860,125	99.6
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	3,654	0.4
投 資 信 託 財 産 総 額	863,779	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2019年6月17日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	863,779,355円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	3,653,659
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド(評価額)	860,125,696
(B) 負 債	2,611,122
未 払 信 託 報 酬	2,611,112
未 払 利 息	10
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	861,168,233
元 本	911,556,342
次 期 繰 越 損 益 金	△50,388,109
(D) 受 益 権 総 口 数	911,556,342口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,447円

(注) 当ファンドの期首元本額は10,000,000円、期中追加設定元本額は920,777,927円、期中一部解約元本額は19,221,585円です。

(注) 1口当たり純資産額は0.9447円です。

■損益の状況

当期(2018年9月20日から2019年6月17日まで)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△1,330円
支 払 利 息	△1,330
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△665,981
売 買 益	383,554
売 買 損	△1,049,535
(C) 信 託 報 酬 等	△5,315,881
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△5,983,192
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△44,404,917
(配 当 等 相 当 額)	(△323)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△44,404,594)
(F) 計 (D+E)	△50,388,109
(G) 収 益 分 配 金	0
次 期 繰 越 損 益 金 (F+G)	△50,388,109
追 加 信 託 差 損 益 金	△44,404,917
(配 当 等 相 当 額)	(△2,313)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△44,402,604)
繰 越 損 益 金	△5,983,192

(注) (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (G) 収益分配金の額の計算過程については、以下の表をご参照ください。

項目	当期
計算期間末における配当等収益から費用を控除した額	0円
有価証券売買等損益から費用を控除した額	0円
信託約款に規定される収益調整金	0円
信託約款に規定される分配準備積立金	0円
分配対象収益	0円
(1万口当たり)	0円
分配金額	0円
(1万口当たり)	0円

■分配金のお知らせ

	第 1 期
1 万 口 当 たり 分 配 金 （ 税 引 前 ）	0円

※分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

■お知らせ

◇約款変更

- ・当ファンドの親投資信託であるGCIオルタナティブバスケット・マザーファンドにおいて、約款付表に「別に定める投資信託証券」として規定された「GCIリラティブバリュースE1」を投資対象から除外するため、所要の変更を行いました。（変更日：2019年3月29日）

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド

運用報告書

第 1 期（決算日 2019年 6 月17日）

＜計算期間 2018年 9 月20日～2019年 6 月17日＞

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの第 1 期の運用状況をご報告申し上げます。

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	無期限（設定日：2018年 9 月20日）
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。
主要投資対象	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
主な組入制限	同一銘柄の投資信託証券への投資割合には、制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 デリバティブ取引の利用は行いません。

■設定以来の運用実績

決 算 期	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率	純 資 産 額
		期 騰	落 中 率		
(設 定 日) 2018年9月20日	円 10,000		% —	% —	百万円 12
1 期 (2019年6月17日)	9,557		△4.4	98.5	883

(注) 設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

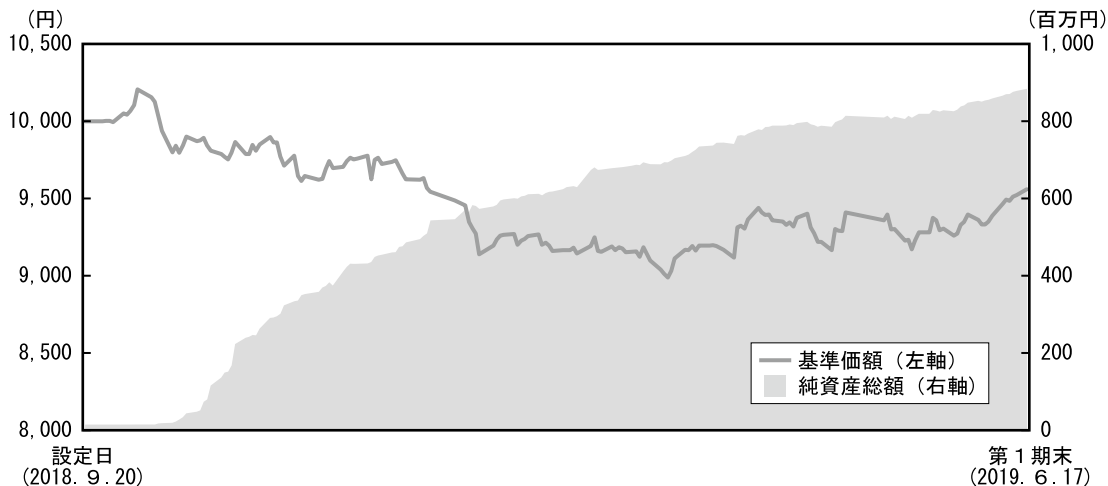
■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 証 券 組 入 比 率
		騰	落 率	
(設 定 日) 2018年9月20日	円 10,000		% —	% —
9 月 末	9,993		△0.1	99.9
10 月 末	9,751		△2.5	38.9
11 月 末	9,695		△3.1	94.5
12 月 末	9,542		△4.6	85.3
2019年1 月 末	9,192		△8.1	99.2
2 月 末	9,138		△8.6	98.7
3 月 末	9,362		△6.4	98.7
4 月 末	9,409		△5.9	98.4
5 月 末	9,394		△6.1	98.5
(期 末) 2019年6月17日	9,557		△4.4	98.5

(注) 騰落率は設定日比です。

運用経過

■基準価額等の推移



設 定 日 : 10,000円

第 1 期末 : 9,557円

騰 落 率 : $\Delta 4.4\%$

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は下落し、当期間のリターンは $\Delta 4.4\%$ となりました。

主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が下落したことがマイナスに影響しました。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は上昇（金利は低下）しました。期初には海外長期金利の上昇を受けて、国内金利は上昇しましたが、その後、2018年末から19年初にかけ国内外で株価が下落となったこと等から2019年初には国内10年国債利回りが再度マイナス圏に突入しました。その後も世界景気の減速懸念や米国金利の低下に伴いじりじりと金利は低下し、また、期の終盤においては米中貿易摩擦や米国の利下げ観測を受け、国内債券は上昇（金利は低下）、国内10年国債利回りはさらにマイナス圏を深堀りする格好となりました。

【国内株式】

当期の国内株式市場は下落しました。2018年10月初に日経平均株価が27年ぶりの高値を更新する場面もありましたが、その後は、米国ハイテク株の急落や米国景気の減速懸念等を受け株価は下落しました。1月以降は、FRB（米連邦準備理事会）の利上げに慎重な姿勢への転換、米中通商協議の進展期待等を背景に株価は回復していきましたが、5月に入り一転米中貿易摩擦が激化、為替が円高方向へ進んだことも重しとなり、再び株価は下落となりました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。期初には良好な米国経済指標やFRB高官のタカ派姿勢を背景に金利は上昇しましたが、世界的な株価急落を受け金利は低下に転じました。その後も、主要中央銀行の慎重な姿勢、世界的な景気後退への懸念、2019年5月以降の米中貿易摩擦の激化等、金利低下圧力が続きました。

【外国株式】

当期の外国株式市場はほぼ横ばいとなりました。10月に入り米国ハイテク株の急落をきっかけに下落となり、その後も、米国の政府機関閉鎖や英国のEU離脱交渉の混迷、米中関係の悪化懸念等の悪材料が多く調整局面が継続し、年末にかけて一段と下落しました。しかし、2019年に入ってから、主要中央銀行の慎重な姿勢、米中貿易協議の進展、好調な企業決算等を背景に上昇が続きました。

5月には米中貿易摩擦の激化、欧米の経済指標の悪化、米国による対メキシコへの追加関税表明などから下落となりましたが、期末にかけては主要国中央銀行の経済下振れリスクへの対応、米国の対メキシコへの追加関税の回避等を材料に反発し、期初に近い水準で期末を迎えました。

【為替相場】

当期の為替相場は、円は対米ドルで上昇しました。2018年12月半ばから2019年初にかけては世界経済の減速懸念や株安を受けて円高が進みましたが、その後は米中通商協議の進展期待や良好な海外経済指標等を背景に円安傾向となりました。しかし、5月に入り一転米中貿易摩擦が激化し、加えて米国によるメキシコへの追加関税が表明される等を受けて再び円高が進みました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、定性評価、定量評価等を勘案して当社が運用に関与するオルタナティブ戦略（投資信託証券）を複数選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。なお、「GCIリラティブバリューファンド クラスE1」は、ファンドが償還されるはこびとなりましたため、本年3月末に投資対象ファンドより除外といたしましたが、当ファンド設定以来組入れの実績はなく、当ファンドの運用において実質的な影響はございません。

期末における各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が88.8%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」が9.6%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■今後の運用方針

引き続き、運用の基本方針に従い、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 1 期		項目の概要
	2018年9月20日～2019年6月17日		
	金額	比率	
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)	(a) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000 その他は、信託事務の処理に要するその他の費用
合計	0	0.000	

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
- (注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。
- (注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額（9,497円）で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

■売買及び取引の状況

投資信託受益証券、投資証券

(2018年9月20日から2019年6月17日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
国内	GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	85,397,929	85,100	—	—
	GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM	84,181 (0.25)	786,100 (—)	—	—
	証 券 数 ・ 金 額	85,482,110 (0.25)	871,200 (—)	—	—

(注) 金額は受渡し代金です。

(注) 単位未満は切り捨てています。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(注) ()内は分割・償還による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

■利害関係人との取引状況等 (2018年9月20日から2019年6月17日まで)

該当事項はございません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

■第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業または商品取引受託業務を兼業している委託会社の自己取引状況 (2018年9月20日から2019年6月17日まで)

該当事項はございません。

■組入資産の明細

ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンド

(2019年6月17日現在)

フ ァ ン ド 名	当 期 末		
	口 数	評 価 額	比 率
GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	85,397,929	85,235	9.6
GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM	84,182	784,956	88.8
合 計	85,482,111	870,192	

(注) 評価額は、単位未満を切り捨てています。

■投資信託財産の構成

(2019年6月17日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投 資 信 託 受 益 証 券	870,192	98.5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	13,618	1.5
投 資 信 託 財 産 総 額	883,810	100.0

(注) 金額の単位未満は切り捨てています。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2019年6月17日現在)

項 目	当 期 末
(A) 資 産	883,810,425円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	3,618,314
投資信託受益証券(評価額)	870,192,111
前 払 金	10,000,000
(B) 負 債	10
未 払 利 息	10
(C) 純 資 産 総 額 (A-B)	883,810,415
元 本	924,778,818
次 期 繰 越 損 益 金	△40,968,403
(D) 受 益 権 総 口 数	924,778,818口
1 万口当たり基準価額(C/D)	9.557円

(注) 当マザーファンドの期首元本額は12,980,000円、期中追加設定元本額は926,171,166円、期中一部解約元本額は14,372,348円です。

(注) 元本の内訳は以下の通りです。

- ・GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10 (ラップ専用) 899,995,497円
- ・GCIオルタナティブバスケット・ファンドV3 (ラップ専用) 24,783,321円

(注) 1口当たり純資産額は0.9557円です。

■損益の状況

(2018年9月20日から2019年6月17日まで)

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△6,369円
支 払 利 息	△6,369
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△1,007,889
売 買 損 益	135,672
売 買 損	△1,143,561
(C) そ の 他 費 用 等	△327
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△1,014,585
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△40,376,166
(F) 解 約 差 損 益 金	422,348
(G) 計 (D+E+F)	△40,968,403
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	△40,968,403

(注) (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) (F) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

■お知らせ**◇約款変更**

- ・当ファンドの約款付表に「別に定める投資信託証券」として規定された「GCIリラティブバリューファンド クラスE1」を投資対象から除外するため、所要の変更を行いました。(変更日：2019年3月29日)

[組入投資信託証券の内容]

GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

形態	追加型株式投資信託
信託期間	無期限（設定日：2018年9月21日）
運用方針	中長期的な信託財産の成長と安定した収益の確保を目標に積極的な運用を行います。
主要投資対象	GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンド受益証券
運用方法	GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンドの受益証券への投資を通じて、独自に開発した短期アルゴリズム取引を組み合わせた短期トレーディングによるロング・ショート運用を行います。
分配方針	年1回（2月20日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。（ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）

○損益の状況

(2018年9月21日～2019年2月20日)

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△20円
支払利息	△20
(B) 有価証券売買損益	45,153
売買益	45,153
(C) 信託報酬等	△5,241
(D) 当期損益金 (A+B+C)	39,892
(E) 追加信託差損益金	△247,414
(配当等相当額)	(△30)
(売買損益相当額)	(△247,384)
(F) 計 (D+E)	△207,522
(G) 収益分配金	0
次期繰越損益金 (F+G)	△207,522
追加信託差損益金	△247,414
(配当等相当額)	(△1,692)
(売買損益相当額)	(△245,722)
分配準備積立金	46,278
繰越損益金	△6,386

(注) (B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益 (0円)、費用控除後の有価証券等損益額 (46,278円) より分配対象収益は46,278円 (10,000口当たり7円) ですが、当期に分配した金額はありません。

○組入資産の明細

親投資信託残高

(2019年2月20日現在)

フ ァ ン ド 名	当 期 末	
	口 数	評 価 額
	千口	千円
GCI株式ロング&ショートトレーディング マザーファンド	59,910	62,145

(注) 口数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) GCI株式ロング&ショートトレーディングマザーファンド全体の受益権口数は (4,739,358千口) です。

GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

ファンド形態	外国籍投資信託
主な投資対象	世界各国の株価指数先物・債券先物・金利先物、通貨先物、為替
運用の基本方針	システム運用により信託財産の長期的な成長を目指します。
委託会社 (運用会社)の名称	株式会社GCIアセット・マネジメント

○損益計算書 2018年9月26日～2019年5月31日

		(単位 : USD)
Realised gain/loss	Commission & other charges	(206.58)
	Realised gain/loss bonds	9,452.51
	Realised gain/loss futures	3,672.78
	Realised gain/loss fx forward	(2,884.47)
	Realised gain/loss fx spot	12,705.27
	Realised gain/loss mutual funds	(24,467.93)
	Total for Realised gain/loss	(1,728.42)
Unrealised gain/loss	FX gain/loss – balance sheet	48,724.04
	Unrealised p/l forward fx	35,978.40
	Unrealised p/l settled bonds	2,607.08
	Unrealised p/l settled mutual funds	(125,207.28)
	Unrealised p/l spot fx	(203.44)
	Unrealised p/l unsettled futures	50,551.96
	Total for Unrealised gain/loss	12,450.76
Interest income	Interest income bank accounts	7,100.43
Other expenses	Administration disbursements	(79.90)
	Administration fee expense	(799.04)
	Audit fee	(516.42)
	Bank charges	(547.15)
	GRS Services Expense	(99.25)
	FATCA Services fee expense	(199.76)
	Financial statement prep exp	(399.70)
	Legal fee	(206.43)
	License fee	(403.17)
	MLRO Fee Expense	(66.59)
	Regulatory Fee Expense	(432.31)
	TA transaction fee	(53.69)
	Trustee Fees Expense	(279.72)
	Total for Other expenses	(4,083.13)
Investment Expenses	Interest Expense	(15.09)
NET PROFIT/LOSS FOR THE PERIOD		13,724.55

○組入上位10銘柄

2019年5月31日

	銘柄	種類	通貨	国	組入比率 (%)
1	10-year JGB Futures Jun19	債券先物	JPY	日本	479.1
2	Euro-Bund Futures Jun19	債券先物	EUR	ドイツ	88.6
3	Japanese Yen Futures Jun19	通貨先物	USD	米国	77.8
4	10-Yr US Treasury Note Futures Sep 19	債券先物	USD	米国	65.7
5	S&P Canada 60 Index Futures Jun19	株価指数先物	CAD	カナダ	52.2
6	Treasury Bill 01/10/19	外国債券	USD	米国	28.6
7	Treasury Bill 07/05/19	外国債券	USD	米国	20.2
8	French 10-Year Bond Future Jun19	債券先物	EUR	ドイツ	19.9
9	Euro FX Futures Jun19	通貨先物	USD	米国	17.2
10	STOXX® Europe 600 Index Futures Jun19	株価指数先物	EUR	ドイツ	12.5
組 入 銘 柄 数					13銘柄

(注) 銘柄は、GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスMが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地および債券は発行体の所在地です。